



Japan Society of Civil Engineers

International Activities Center

国際センター通信(No.116)

アジア土木学協会連合協議会(ACECC)

第 42 回理事会(ジャカルタ)

1. 概要

ACECC (The Asian Civil Engineering Coordinating Council) は、アジア地域の持続可能な社会資本の整備と発展を目的として 1999 年 9 月に設立された組織である。現在は加盟学協会が 15 団体で、土木関連学協会の協力により学術・技術の促進に向けた諸活動を進めている。ACECC の最高議決機関である理事会 (Executive Committee Meeting, ECM) は、加盟学協会の持ち回りで年に 2 回開催されている。今回 (第 42 回) の理事会は、インドネシア土木構造工学会 (Indonesian Society of Civil and Structural Engineers, HAKI) 主催で 2022 年 3 月 28、29 日にオンラインで開催された。本邦土木学会 (JSCE) からは、山口 栄輝 JSCE 代表 (九州工業大学)、加藤 浩徳委員長 (東京大学)、大西 博文副委員長 ((株)片平新日本技研) と筆者が主に参加した。なお、理事会行事に加え、Technical Committee 14 (Sustainable Infrastructure) のセミナーと Future Leaders Forum セミナーが併催されたが、紙面の都合上割愛する。オンライン会議の様子と各イベントのスケジュールを、それぞれ写真 1 と表 1 に示す。



写真 1 会議の様子

表 1 第 42 回理事会および関連イベントのスケジュール

開催日	ジャカルタ時間	日本時間	イベント
3/28 (月)	11:00-13:30	13:00-15:30	技術調整委員会 (Technical Coordination Committee Meeting, TCCM)
	14:30-17:30	16:30-19:30	企画委員会 (Planning Committee Meeting, PCM)
3/29 (火)	11:00-11:30	13:00-13:30	TCCM および PCM の議事録確認
	11:30-14:10	13:30-16:10	理事会 (Executive Committee Meeting, ECM)
	14:40-16:00	16:40-18:00	TC14 セミナー
	16:15-17:45	18:15-19:45	Future Leaders Forum Seminar

2. 技術調整委員会 (Technical Coordination Committee Meeting, TCCM)

TCCM では、現在活動中の 11 の技術委員会 (Technical Committee, TC) の活動報告が行われた。JSCE が Chair を務める TC21 (Transdisciplinary Approach for Building Societal Resilience to Disasters) については、JSCE 全国大会の Special Session やフィリピンでの Field Survey の状況、CECAR 9 に向けた活動計画等が、石渡 幹夫 Chair (東京大学) より報告された。また、前回 ECM で設立が認められた JSCE 主催の TC28 (Application of Monitoring Technology for Infrastructure Maintenance, TC chair: 山口 栄輝 (九工大教授)) について、9 つの加盟団体から 13 名の参加者が集まっていることなどが、中野 雅章委員 (日本工営 (株))より報告された。

TC 活動報告のほか、大韓土木学会 (Korean Society of Civil Engineers, KSCE) より Network Construction and Joint Utilization of Large-Scale Experimental Facilities と題した新しい TC の提案があり、TC29 として設立が認められた。このテーマは日本の技術がリードしている分野の一つであり、今後の動向を見ながら、JSCE からメンバー派遣を検討したい。なお、TC17 (Ethical Practices to Reduce Corruption) で作成中の ACECC Code of Ethics の取り扱いや TC 活動のガイドラインの見直しなどの議論もあったが、結論は次回へ持ち越しとなった。

3. 企画委員会 (Planning Committee Meeting, PCM)

PCM では、2022 年 9 月にインド・ゴアで開催予定の第 9 回アジア土木技術国際会議 (CECAR 9)の開催方針に関して、多くの議論が行われた。CECAR 9 の主催者である The Institution of Civil Engineers (ICE, I) からは、対面形式を強く希望するとともに、予定通り開催するか 1 年延期するか 2 つの案が提案された。これに関して、各団体から様々な意見が出されたため、翌日の ECM に持ち越しとなった。また、CECAR 9 で表彰される予定の 3 つの ACECC 賞 (プロジェクト賞、功績賞、TC 賞) について、投票結果が報告された。

4. 理事会 (Executive Committee Meeting, ECM)

ECM では、TCCM、PCM での決定事項が了承された。また、新たに加盟申請をしている Engineering New Zealand の代表者から機関の紹介等があり、満場一致で入会が認められた。

ACECC 賞については、JSCE から応募した以下の 3 件について、高得点ですべて受賞することが決定された。

- ・プロジェクト賞: 国交省九州地方整備局・熊谷組 阿蘇大橋地区斜面防災対策工事
- ・功績賞: 日下部 治氏 (前 ACECC Chair、国際圧入学会専務理事、東京工業大学名誉教授)
- ・TC 賞: TC21 Transdisciplinary Approach for Building Societal Resilience to Disasters

その後、PCM から持ち越しとなっていた CECAR 9 の開催について議論が行われた。冒頭、ICE, I の Chair である Dr. S. L. Swamy より、予定通り本年 9 月に対面形式で開催することを基本とするとともに、渡航が困難な国・地域の参加者に限りオンラインでの参加を認める方針が提案された。この方針に対して大きな反対意見はなく了承された。JSCE については、新型コロナウイルスの状況が依然として不透明であることから、オンラインでの参加が認められた。

5. おわりに

CECAR9 に関しては、JSCE のハイブリッド参加が認められたものの、日本から少しでも多くの参加者を現地参加できるよう担当委員会としても支援をしていきたい。なお、次回の理事会は CECAR9 の前日にインドのゴアで開催される予定である。

CECAR9 の Local Organization Committee (LOC) Chair である Shri Prithipal Singh 氏 (ICE, I) が 2022 年 1 月に急逝された。CECAR9 の成功を見ることなく逝去されたことは大変残念だが、氏のこれまでの功績に敬意を表するとともにご冥福をお祈りしたい。なお、後任の Chair には Prof. T. R. Piplani (Secretary General of the ICE, I) が就任している。

【記 : ACECC 担当委員会 幹事長 井澤 淳 ((公財)鉄道総合技術研究)】

The 10th FLF Monthly Webinar Series

ACECC Future Leaders' Forum (以下 FLF) とは、ACECC 加盟学協会における若手土木技術者のつながりをより強固にするため、30 歳前後の若手土木技術者を募り交流を図ることを目的として 2017 年に企画・設立されました。JSCE からは、Dr. Rajali Maharjah (一般財団法人 運輸総合研究所) とわたくしが FLF メンバーとして参加しております。

2021 年からは FLF Monthly Webinar Series と題して、各加盟学協会がホストとなり Zoom を利用したウェビナーをおよそ毎月 1 回のペースで開催しており、アジア太平洋地域の土木工学的諸課題、土木工学に関する技術動向、持続可能な発展に向けた問題提起等を行っております。2022 年 2 月 19 日 (土) には JSCE ACECC 担当委員会がホストとなり、ウェビナーを開催しました。JSCE がホストを務めたウェビナーは、FLF メンバーである Dr. Rajali Maharjah の司会進行のもと、わたくしを含め、Dr. Shanthanu Rajasekharan (ASTER CO., LTD.)、沼田 宗純 准教授 (東京大学) による 3 件の講演を行いました。

多くの開発途上国においては構造物の脆弱性が課題となっていますが、高価で高品質な構造材料が入手困難であるというジレンマを抱えております。また、昨今カーボンニュートラルが叫ばれる中で、大規模な土木構造物の建設時に排出される CO2 排出量の削減は国を問わず重要な検討課題であります。こうした背景から本セミナーでは、「Civil engineering's contribution to carbon neutrality」をウェビナーのトピックとし、土木工学がカーボンニュートラルな社会に果たす役割について、講演者の専門分野における具体的な事例を挙げつつ議論致しました。環太平洋地域に位置する国々は、地震や台風による風水害等多くの共通点があります。こうした外力に対して、物的・人的被害を軽減させつつ、なおかつ環境にも配慮した日本の土木技術に対して、聴衆の方々からも多くの質問が寄せられ活発な議論がなされました。

この月例ウェビナーを通して思うことは、新型コロナウイルスの流行は海外渡航



岩井 裕正
(京都大学 准教授)

The Xth International Webinar Series

CIVIL ENGINEERING'S CONTRIBUTION TO CARBON NEUTRALITY

Hosted by (Japan Society of Civil Engineers (JSCE)) in collaboration with the Future Leaders of The Asian Civil Engineering Coordinating Council

Date: 2022 February 19
Time: 13:00 - 14:30 (JST)
Registration Link:
<https://forms.gle/pNy7wzdw1gcqgLRSA>

Dr. Shanthanu R Menon
Aster Co. Ltd.
Strengthening masonry buildings through innovative seismic retrofitting technology and its potential impact on CO2 emissions.

Dr. Hiromasa Iwai
Nagoya Institute of Technology
Geotechnical investigation of CO2 sequestration into seabed ground using carbon dioxide hydrate.

Dr. Muneyoshi Numada
University of Tokyo
Disaster management process approach

や国際的な行事への現地参加が制限されるというディスアドバンテージがある一方で、Zoom や SNS が急速に普及したおかげで国外の技術者・研究者と議論する機会はむしろ増加したように個人的には感じます。パンデミックという大きな外力によって海外との“コミュニケーション距離”がぐっと縮まったことは、各国が協同し地球規模での課題解決を推進するための非常に重要な転機だと思います。海外土木技術者との交流や、土木工学の側面から地球規模での課題解決に興味のある若手技術者・研究者の皆様、是非 FLF の活動に参画してみませんか。

トピック: Civil engineering's contribution to carbon neutrality

・ Moderator: Dr. Rajali Maharjah (Japan Transport and Tourism Research Institute)

	Presentation Title	Presenter
1	Geotechnical investigation of CO2 sequestration into seabed ground using carbon dioxide hydrate	Dr. Hiromasa Iwai, Nagoya Institute of Technology
2	Strengthening masonry buildings through innovative seismic retrofitting technology and its potential impact on CO2 emissions	Dr. Shanthanu Rajasekharan, ASTER CO., LTD.
3	Disaster Management Process Approach	Dr. Muneyoshi Numada, Institute of Industrial Science, The University of Tokyo



参加者

【記：岩井 裕正（京都大学 准教授）】

* FLF Monthly Webinar 参加当時、名古屋工業大学所属。

Student Voice

知識の探求に終わりはない

こんにちは！私の名前はイザベラです。フィリピンから来ました。今、京都大学大学院工学研究科を卒業しようとしています。2020年3月、京都大学地球工学科国際コースで工学の学士を取得しました。

この機会を得て、日本での留学生としての経験をお伝えできることを、とてもありがたく思っています。小さい頃からずっと、日本に住みたいと思っていました。日本はずっと、私の家族にとって第二の故郷なのです。両親ともに、私が生まれる前に日本に住んでいたからです。私は大きくなると日本に旅行して、科学博物館や公園、東京ディズニーランド、そしてディズニーシーに行きました。小さい頃から、タワーやビル、その他の建造物に強く興味を持っていたので、日本を訪れるといつも、橋を渡り、超高層建築やタワーを見上げて驚嘆していました。両親はともに技術者で、私自身も早い時期から土木技術者になりたいと思っていたのです。フィリピンで生まれ育ちましたが、日本がこの分野で最先端の国の1つであることは知っていました。フィリピンの複数のインフラプロジェクトは、日本のODAによるものでした。そのため、日本でトップに数えられる大学の国際コースで土木工学を学ぶチャンスが到来した

時、これを逃すわけにはいかないと思いました。選考過程でベストを尽くし、幸運にも合格できたのです。2016年3月、18歳になった2日後に荷造りをして日本に来ました。日本に住み始めてからは、学業だけでなく、日常生活についても多くを学びました。おそらく故郷を離れた誰もが経験することだと思います。学業面での学部生の最大の決断の1つは、どの専門分野を選ぶかということです。



**Isabella Galarosa
MARTINEZ**

(当時、京都大学大学院
工学研究科 社会基盤工学
専攻)



**ICP (UNDER GRADUATE INTERNATIONAL COURSE PROGRAM
OF CIVIL ENGINEERING) 歓迎パーティー 2019 年**



ICP Batch 2016~2020 年

大学での最初の3年間はさまざまな授業に参加し、土木工学の4つの主要分野、すなわち「構造工学」、「水工学」、「地盤工学」、「土木計画学」の基礎をじっくり学びます。どの分野も面白かったのでとても難しい決断でしたが、私は最終的に「地盤工学」を選びました。4年生になってからは、京都大学の地盤力学の研究室に加わりました。同年に、幸運にも上田記念財団から奨学金を得て、翌年の修士プログラムの一員となることが決まりました。遠心分離モデリングをテーマとする論文を作成し、2020年3月に卒業する予定でした。それで、論文審査会を無事終えた後、卒業前の短い休暇にフィリピンに一時帰国したのです。その3週間の故郷の滞在予定が2年に及ぼうとは、知る由もありませんでした。その後私は、京都大学での研究をはるばるフィリピンのマニラから続けました。

COVID-19のパンデミックは私たちの生活に大きな影響を与えましたが、この2年間を通じて、私は知識の探求は決して止まらないということを知りました。最新のテクノロジーを活用して講義は引き続き行われ、課題はオンラインのプラットフォームから提出しました。このような状況になっても、講義が中断されたことは一度もありません。教授と学生は変わることなく共に協力し、バーチャルな教室を学習の場にしました。私は1年目の課程を無事終え、2学期間ティーチングアシスタントを務めることもできたのです。研究に関しては、研究活動を最大限に行いつつ、教授とともに状況に適応しなければなりません。自分の研究のために有限要素モデリングの手法を学び、マニラで研究を進めることもできました。オンライン会議に参加し、日本のさまざまな大学や機関の学生や教授と交流しました。そして、2022年2月、論文審査会で合格することができました。大学から2,000キロ以上離れたところでプログラムの要件を達成できたことは、今でも信じがたいです。2年を経て、ようやく日本に帰ることができました。今、待機期間の終了を待ちつつこの記事を書いています。過去2年間は本当に大変でした。しかし研究者として問題解決の道筋を発見し、試そうとする私たちの心はつながっています。それはやらなければならないからではなく、それが自分の一部だからです。知識を学び、分かちあいたいという私たちの意欲は、これまでも、そしてこれからも、決して失われません。



国際交流会館 みささぎ分館で鍋パーティー



友人たちとの花見



安芸の宮島



研究室の旅行

【記: Isabella Galarosa MARTINEZ (当時、京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻)】

お知らせ

【今後の予定】

- ◆ JSCE-ASCE Infrastructure Resilience Research Group ホームページ
<https://www.infraresil.jp/>
- ◆ 全国土木弁論大会「ことばの講座」・「有馬優杯」
<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter02/node/21>
- ◆ 「海外インフラプロジェクトアーカイブス (JSCE ウェブサイト英語版)」
<http://www.jsce.or.jp/e/archive/>
- ◆ 第 9 回アジア土木技術国際会議
<https://cecar9.com/>
- ◆ 第 180 回論説(2022 年 5 月版) オピニオン
 - (1) 地方圏における公共交通サービスの再構築を目指して
<https://note.com/jsce/n/nb15a59d59358>
 - (2) 土木現場におけるダイバーシティ&インクルージョン (D & I) の推進
<https://note.com/jsce/n/n5e346833af0f>
- ◆ 「国際センターだより」※JSCE ウェブサイト (日本語版)
http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_dayori_2021
- ◆ 土木学会誌 2022 年 6 月号 ※JSCE ウェブサイト (英語版) <http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ European Council of Civil Engineers
<http://www.eccengineers.eu/>
- ◆ The 9th International Conference on Flood Management (ICFM9)
<https://www.icfm9.jp/index.html>

- ◆【9月27～29日】The 4th Asian Concrete Federation (ACF) Symposium on Emerging Technologies for Structural Longevity (ACF2022_ETSL)
<https://acf2022.aconf.org/index.html>
- ◆米国土木学会(ASCE) 関連
 - ・【10月23～26日】ASCE Convention 2022
<https://www.asce.org/education-and-events/events/meetings/asce-convention-2022/>

配信申し込み

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

- ・日本語版: (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・英語版: (<http://www.jsce-int.org/node/150>)

英語版 Facebook

直近の国際センターの活動について紹介しています。
(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

【ご意見・ご質問】JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp 皆様のご意見やコメントをお待ちしております。

